

第41回 通常総会資料

平成29年6月14日(水)

名古屋市中村区椿町6-9
名鉄ニューグランドホテル 7階
TEL 052-452-5511(代表)

全日本プラスチックリサイクル工業会

愛知県一宮市伝法寺一丁目9番地8
TEL 0568-77-4033

総会次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 総会成立宣言
4. 議長選出
5. 議事
 - 1) 第1号議案 平成28年度事業報告及び決算関係書類承認の件
(監査報告)
 - 2) 第2号議案 平成29年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件
 - 3) 第3号議案 経費の賦課金徴収方法決定の件
 - 4) 第4号議案 役員改選の件
6. 議長挨拶降壇
7. 万歳三唱
8. 閉会のことば

環境講演会

演題『サーキュラー・エコノミー(循環経済)～国際的な潮流と日本～』

1. 開会のことば
2. 講師紹介
3. 講演(約40分間)
4. 講師お礼及び挨拶
5. 閉会のことば

懇親パーティー

1. 会長挨拶
2. 来賓祝辞
3. 乾杯
4. 中々

第1号議案

平成28年度 事業報告書

自 平成28年5月 1日

至 平成29年4月30日

概況

当期における世界経済は、中国を始めとした新興国の景気減速や、英国のEU離脱問題などに伴い不透明感が高まりましたが、米国経済の回復が続いたことなどにより、全体としては緩やかな回復となりました。日本経済におきましては、輸出・生産面に鈍さがみられたものの、雇用・所得環境の改善を背景にした個人消費の持ち直しなどにより、景気は緩やかな回復基調が続きました。反面、米国大統領選挙の結果を受けて円安ドル高が進み、先行きが読めない変化の激しい経済環境となりました。

一方我が業界に於きましては、一昨年からのナフサの下落で、新材プラスチック市場は昨年通じて安値で安定し、再生プラスチック市場は苦戦を強いられました。昨年末のナフサ価格の上昇により、漸次値戻しが始まっています。伴い、本年は価格競争力のある材料として、再度期待が高まるものと思われます。もちろん原価低減材としてだけではなく、COP22で掲げられた、2030年に、温室効果ガスの23%を削減するという政府目標に対し、マテリアル素材の目玉として、プラスチックの再生材が注目され、至るところで、塗装付きバンパー等の回収からのリペレットについて実証実験が行われています。益々我が工業会に期待されることが、大きくなることと思えます。会員ともども協業しながら、生成発展していきたいと考えています。

2. 会員の移動

平成29年4月末現在

会員	区分	28年5月	29年5月	増減	摘要
関東プラスチックリサイクル協同組合		50	52	2	
日本合成樹脂有効利用組合		5	5	0	
東日本プラスチック再生協同組合		23	22	-1	
愛知県プラスチックリサイクル協同組合		31	30	-1	
北陸合成樹脂商工会		4	4	0	
京滋プラスチックリサイクル工業会		9	9	0	
関西プラスチックリサイクル商工会		14	14	0	
九州プラスチックリサイクル工業会		10	10	0	
個人会員		3	3	0	
合計		149	149	0	

※特殊な賛助会員(金網、紙袋等共同購買会社)は、除外します。

3. 会議開催状況

(1) 総会

- イ. 開催日時 平成28年6月15日(水) 午後2時より
 - ロ. 開催場所 名鉄グランドホテル 11階
 - ハ. 出席者数 37名(本人出席25名及び委任状12名)／総数45名
- 二. 議事の経過及び議決の結果

平成27年度事業報告及び決算を承認したあと、平成28年度事業計画及び予算案を議決した。そして、経費の賦課金徴収方法を議決し、事務所所在地の変更を議決した。

(2) 第1回常任理事会

- イ. 開催日時 平成28年6月15日(水) 午前11時より
 - ロ. 開催場所 名鉄グランドホテル 11階
 - ハ. 出席者数 19名(本人出席19名)／総数19名
- 二. 協議事項
1. JPRA の新規ホームページの立ち上げについて
 2. 第40回通常総会、記念講演会、懇親パーティーの役割分担
 3. 平成27年度決算報告、平成28年度予算(案)の審議
 4. カーボンフットプリント(CFP)活動報告について
 5. JPRA のマーク取得について
 6. 定款第3条 事務所の所在地変更について
 7. リサイクル推進協議会の表彰について
 8. 市況分析
 9. その他

(3) 第2回常任理事会

- イ. 開催日時 平成29年3月8日(水) 午後2時より
 - ロ. 開催場所 名鉄グランドホテル11階
 - ハ. 出席者数 19名(本人出席16名及び委任状3名)／総数19名
- 二. 協議事項
1. 総会、懇親会のタイムスケジュール及び役割分担
 2. JPRA のマーク取得について
 3. カーボンフットプリント(CFP)について
 4. JIS 品質マネジメントシステム(プラスチック再生材料)について
 5. リサイクル推進協議会の表彰について
 6. 市況分析
 7. その他

1. 基本方針

概況

自 平成29年5月 1日

至 平成30年4月30日

1. 基本方針

昨年比して、原油の価格が50ドル以上が維持されており、ナフサ価格も40,000円を越え、樹脂の素原料である、スチレンモノマー、プロピレン、エチレンビスフェノール A、カプロラクタム等が高騰し、各樹脂メーカーは一斉に値上を打ち出して来ています。また、今年は各メーカーが大きな定修を迎え、玉のタイト感は今分強くなる模様です。

そんな国内のプラスチックの現状があるなか、コストメリット以外にも、リサイクル業界への要望が高まってきております。昨年はプラスチックの再生事業の生産プロセスに関する JIS 化が承認され、再生材の社会的認知が更に進みました。また団体として初の CFP 原単位の取得ができ、弱電等の民生機器メーカーからは、もっと活用を望む声も上がっております。

COP22 では、CO2 の削減計画が明確になって参りました。プラスチックのマテリアル利用の推進はその目玉になる可能性があります。CARTOCAR の実証実験も各所で行われており、産官学連携の中で、目標の削減数字に向って着々と進むことと思われま

す。限りある資源の有効利用を通じて、循環型社会の形成のために私たち会員が連携し、社会の発展に貢献していきたいと思

2. 事業計画

(1) 組織の拡大強化

組織の強化に努め、工業会の活性化を図る。

(2) 広報宣伝活動

業界紙に広告を掲載する。

ホームページを活用する。

(3) 交流、情報交換、教育活動

① 業界懇親会開催

業界の現況、今後の見通し及び当面する諸問題(特に環境・リサイクル関連)について情報交換を行い、検討・協議するため懇親会を開催する。

② 関係団体等開催の講習会への参加

(4) 関係官庁・団体との連絡

経済産業省製造産業局素材産業課(合成樹脂担当・消費生活製品担当)
環境省大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部 企画課リサイクル推進室
日本プラスチック工業連盟

(一社)産業環境管理協会
 (一社)プラスチック循環利用協会
 日本プラスチック有効利用組合
 中国国家質量検驗検疫総

第3号議案 経費の賦課金徴収方法決定の件(案)

※定款第12条

- ・本会は、その行う事業の費用(使用料又は、手数料をもって充てるべきものを除く)に充てるための会員に経費を賦課することができる。
- ・前項の経費の額、その徴収の時期及び方法その他必要な事項は、総会において定める。

※会費 金7,000円/一社 ※時期—総会后3ヶ月以内

※方法は振込手数料を差し引かない。個人会員は除き各団体単位。

第4号議案 役員改選の件 定款20条に従って役員を選定する。

(会長、副会長、専務理事)

定款 第16条 1. 常任理事のうち1人を会長、2人を副会長、1人を専務理事とし常任理事会において選任する。

(役員選挙)

定款 第20条 1. 役員は、総会において選挙する。
 2. 役員選挙は、指名推薦の方法によって行う。
 3. 被指名人の選定は、その総会において選任された選考委員が行う。
 4. 選考委員が被指名人を決定した時は、その被指名人を以て当選とするかどうかを総会に諮り、出席者の3分の2の同意があった者を当選人とする。

※ リサイクル推進協議会の表彰について

ブロックによって会員数が異なるため、公平性という立場から五つのグループに再編し、そのグループ中で協議してもらい推薦する。

平成29年4月末現在

年度	グループ	各ブロック名(会員数…多少増減はあります)
H30年度	A	関東プラスチック(52社)
H31年度	B	東日本プラスチック(22社). 日本有効(5社)
H32年度	C	愛知県プラスチック(30社)
H33年度	D	北陸合成(4社). 九州プラスチック(10社). 個人会員(3社)
H34年度	E	関西プラスチック(14社). 京滋プラスチック(9社)

計149社

グループの動き(A→B→C→D→E)

H29年度はグループE(関西・京滋) (株)近江物産 代表取締役 芝原茂樹氏に決定しました。

※H30年度は、グループA(関東)にて選出をお願いします。